

# 特集に寄せて

## 特集「人間特性評価技術」 への期待

取締役

林 靖 享



人間や生体に関する研究は、このところ着実な進展をとげている。脳の研究を例にとると、記憶を作り出す神経細胞の働きやネットワークまでもが、かなり詳細に解明されるようになってきた。一人の人間として考えると、ある種のためらいを感じる領域にまで研究が及んできている。

一方、豊田中央研究所における研究は、

- ・感性を中心とした分析や解析
- ・人間の心理・生理反応に関する計測と解析
- ・人間の動作・反応の物理的あるいは数学的モデリング

が主要テーマとなっている。工学的立場から考えると、もっともオーソドックスかつ有用なテーマであり、それぞれが現象解明やモノの設計データとして役立ってきた。今後は、これらの研究の関連づけを高めるのはもちろんのこと、はじめに述べたような、人間のより基礎的な分野にも配慮して、研究の奥を究めていきたいものである。

人間の感覚や反応は、個人のばらつきが大きく、また同一人物でも時期によってその値が変動する。平均をとって代表値とするような考え方は、これからの研究においては必ずしも十分とはいえない。21世紀はますます人間性が尊重される時代であり、一人ひとりの特性や要求に合ったモノのあり方が追求されるようになることを念頭においた研究が必要である。